

令和6年度

社会福祉法人佐賀整肢学園

事業実績報告書

総括抜粋

## 第1号議案

### 令和6年度佐賀整肢学園事業実績報告書

令和6年度佐賀整肢学園事業実績報告書は以下に定めるところによる。

- ① 佐賀整肢学園法人本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～6
- ② 佐賀整肢学園こども発達医療センター・・・・・・・・・・・・・・7
- ③ 佐賀整肢学園・オークス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8～9
- ④ 佐賀整肢学園・かんざき清流苑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- ⑤ 在宅サポートセンターかんざき清流苑・・・・・・・・・・・・・・11
- ⑥ 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター・・・・・・・・・・・・・・12～17
- ⑦ 佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
- ⑧ 佐賀整肢学園・佐賀向陽園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19～20
- ⑨ 居宅介護支援センターわいわい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21～23

(※総括抜粋)

## 令和6年度社会福祉法人佐賀整肢学園法人本部事業報告

令和6年度における社会福祉法人佐賀整肢学園法人本部の主な事業実績は、次のとおりであった。

### 1. 理事会及び評議員会の開催

令和6年度は、理事会を対面式で4回、決議の省略で1回開催し、40件の議案審議、12件の報告、4件の協議を行った。また、評議員会は1回開催し、1件の議案審議、2件の報告を行った。

開催状況は下記のとおりであった。

(理事会)

回数	開催日	区分	主な内容
第1回	令和6年 6月10日	議案 (10件)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和6年度佐賀整肢学園補正予算(第1号)について(案)</li> <li>2. 令和5年度佐賀整肢学園事業報告について(案)</li> <li>3. 令和5年度佐賀整肢学園決算認定について(案)</li> <li>4. 令和6年度社会福祉法人佐賀整肢学園事業計画の一部修正について(案)</li> <li>5. 社会福祉法人佐賀整肢学園理事の選任について(案)</li> <li>6. 規則・規程の一部改正について(案)</li> <li>7. 佐賀整肢学園こども発達医療センターひよこ教室指定児童発達支援センター運営規程等の一部改正について(案)</li> <li>8. 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター職員宿舍新築工事に係る契約について(案)</li> <li>9. 令和6年度社会福祉法人佐賀整肢学園定時評議員会の開催について(案)</li> <li>10. 社会福祉法人佐賀整肢学園会計監査人の報酬について(案)</li> </ol>
		報告事項 (3件)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和5年度決算値 社会福祉充実残額</li> <li>2. 令和5年度実績定例報告関係               <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報開示の実施状況・法人文書開示の実施状況・理事長専決事項の件数</li> <li>・職員の任免状況・法人内施設の利用実績</li> <li>・理事長及び業務執行理事の業務執行状況の報告</li> <li>・令和5年度資金運用の報告について</li> </ul> </li> <li>3. その他               <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度佐賀整肢学園第1回評議員選任・解任委員会の開催及び結果について</li> <li>・佐賀整肢学園からつ医療福祉センター土地の取得交渉の終了について</li> <li>・佐賀整肢学園からつ医療福祉センター造成工事の完工について</li> <li>・佐賀整肢学園からつ医療福祉センター会議室改装工事の完工について</li> <li>・佐賀整肢学園からつ医療福祉センター障害者生活支援事業委託費にかかる消費税の取扱いについて</li> </ul> </li> </ol>
		協議事項	1. なし
第2回	令和6年 9月24日	議案 (6件)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和6年度佐賀整肢学園補正予算(第2号)について(案)</li> <li>2. 社会福祉法人佐賀整肢学園組織規則の一部改正について(案)</li> <li>3. 佐賀整肢学園こども発達医療センター地域支援・管理センター管理規程等の制定について(案)</li> <li>4. 佐賀整肢学園こども発達医療センター管理規程等の一部改正に</li> </ol>

			<p>ついて(案)</p> <p>5. 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター入所事業部正職員給与規程等の一部改正について(案)</p> <p>6. 佐賀整肢学園糸島こどもとおとなのクリニック職員就業規則等の一部改正について(案)</p>
		報告事項 (1件)	1. からつ医療福祉センター職員宿舍新築工事に関する請負契約の締結について
		協議事項 (3件)	<p>1. 在宅サポートセンター・オークス南側周辺用地の取得について</p> <p>2. 佐賀整肢学園こども発達医療センター洗濯作業棟等増築工事入札結果について</p> <p>3. こども発達医療センターの資金運用の状況について</p>
第3回	令和6年 12月11日	議案 (5件)	<p>1. 令和6年度佐賀整肢学園補正予算(第3号)について(案)</p> <p>2. 社会福祉法人佐賀整肢学園組織規則等の一部改正について(案)</p> <p>3. 佐賀整肢学園こども発達医療センター・ひまわり園指定医療型障害児入所施設運営規程等の一部改正について(案)</p> <p>4. 佐賀整肢学園こども発達医療センター外国人留学生奨学金貸与規程の制定について(案)</p> <p>5. 在宅サポートセンター・オークス南側周辺用地取得について(案)</p>
		報告事項 (2件)	<p>1. 監査関係(清流苑、こども、からつ)</p> <p>2. 理事長及び業務執行理事の業務執行状況の報告</p>
		協議事項	1. なし
決議の省略	令和7年 1月16日	議案 (2件)	<p>1. 佐賀整肢学園こども発達医療センター洗濯作業棟等増築工事の請負契約締結について(案)</p> <p>2. 佐賀整肢学園こども発達医療センター医療ガス設備更新工事の契約締結について(案)</p>
		報告事項 (1件)	1. 理事長及び業務執行理事の業務執行状況の報告(令和5年4月～9月)
		協議事項	1. なし
第4回	令和7年 3月24日	議案 (17件)	<p>1. 令和6年度佐賀整肢学園補正予算(第4号)について(案)</p> <p>2. 令和7年度佐賀整肢学園事業計画について(案)</p> <p>3. 令和7年度佐賀整肢学園当初予算について(案)</p> <p>4. 令和7年度資金運用計画の承認について(案)</p> <p>5. 諸規程、諸規則の改正について(案)</p> <p>6. 佐賀整肢学園・オークス施設長の任期の更新について(案)</p> <p>7. 佐賀整肢学園かんざき清流苑施設長及び在宅サポートセンターかんざき清流苑施設長の任期の更新について(案)</p> <p>8. 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター久里双水園施設長の任命について(案)</p> <p>9. 佐賀整肢学園糸島こどもとおとなのクリニック施設長の選任について(案)</p> <p>10. 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター副センター長の任期の</p>

		更新について (案) 11. 佐賀整肢学園かんざき清流苑副施設長の任期の更新について (案) 12. 在宅サポートセンターかんざき清流苑副施設長の任期の更新について (案) 13. 社会福祉法人佐賀整肢学園評議員選任候補者の推薦及び選任・解任委員会の開催について案) 14. 社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会による佐賀県介護福祉士修学支援金等貸与制度に係る連帯保証について (案) 15. 佐賀整肢学園こども発達医療センター洗濯委託業務の契約について (案) 16. 佐賀整肢学園こども発達医療センター清掃委託業務の契約について (案) 17. 専決処分の承認について (案)
	報告事項 (5件)	1. 令和6年度立入検査(書面審査)の実施について 2. 施設事務費の過小支払いについて(日の限寮) 3. 2024年度日本財団福祉車両配備に係る車両整備の完了について(こども) 4. 令和6年度中央競馬馬主社会福祉財団事業に係る利用者送迎用車両配備の完了について(こども) 5. 24時間テレビ福祉車両の贈呈について(清流苑)
	協議事項 (1件)	1. 佐賀整肢学園かんざき清流苑 北側隣接地の取得について

(評議員会)

回数	開催日	区分	主な内容
定時評議員会	令和6年 6月27日	議案 (1件)	1. 社会福祉法人佐賀整肢学園理事の選任について(案)
		報告事項 (2件)	1. 令和5年度佐賀整肢学園事業報告 ・令和5年度佐賀整肢学園決算報告 ・令和5年度決算値社会福祉充実残額 2. 令和5年度実績定例報告関係 ・職員の任免状況 ・法人内施設の利用実績
		協議事項	1. なし

2. 施設長会議及び事務長・経営企画職会議の開催

法人内各施設間の連絡調整と連携強化を図るため、施設長会議及び事務長・経営企画職会議を毎月1回定期的に、あるいは必要に応じて随時に開催した。

また、この会議において、理事会・評議員会への提出議案等についての検討協議を行った。

3. 経営管理委員会の開催

法人運営について、専門的見地から幅広く意見や提言をいただくために設置された経営管理

委員会の運営状況は、下記のとおりであった。

区分	事項	出席者
先進法人視察	○日時 令和6年11月25日～27日 ○視察地 山口県 ○視察先法人名及び施設名 (社福)山口県社会福祉事業団 山口県みほり学園 ○視察先事業 児童心理治療施設	常任委員 1名 非常任委員 7名 法人職員 3名

#### 4. 施設整備計画推進と調整

法人内各施設において推進されている、施設の建設、修繕・改修ならびに大規模な設備導入等の施設整備計画の推進において、所期の事業目的が達成されるよう、国、県・市等の行政機関や関係機関等との協議調整を図った。

また、土地の取得に際して、関係行政機関や地権者等との調整・協議を行った。

(施設の建設・改修等)

施設名	内容
こども発達医療センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東側隣接地の取得 取得面積 647.73 m<sup>2</sup> 取得金額 26,366,251 円</li> <li>・公用車 (トヨタハイエース) 購入 : 車体価格 4,950,230 円、諸経費 117,920 円 計 5,068,150 円 (日本財団補助金 5,000,000 円 (R5 年度受領))</li> </ul>
オークス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干ししいたけ用 電気乾燥機 649,000 円 (うち共同募金会補助 300,000 円)</li> </ul>
かんざき清流苑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リフト付き福祉車両の寄贈 (24 時間テレビチャリティー委員会) 車両本体価格 4,194,205 円</li> </ul>
からつ医療福祉センター 入所  在宅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣土地の取得 取得面積 642 m<sup>2</sup> 取得金額 4,076,800 円 (関連経費を含む)</li> <li>・職員アパート (メゾン双水 A) 建築工事 取得金額 71,740,000 円</li> <li>・見守り介護ロボット aams (6 台および管理サーバー) 取得金額 816,948 円 (うち 国土交通省補助金 347,840 円)</li> <li>・自動入浴機および入浴用車いす 2 台 取得金額 6,682,720 円 (うち あすなろ福祉財団補助金 1,500,000 円)</li> <li>・シャワーストレッチャーおよび歩行介助器具 2 種 取得金額 1,207,075 円 (うち 佐賀県補助金 1,207,000 円)</li> </ul>

糸島クリニック	今年度はなし
日の隈寮	・利用者送迎用自動車の購入 購入価格 3,775,440円 (うち中央競馬馬主社会福祉財団補助 1,770,000円)
向陽園	今年度はなし
わいわい	今年度はなし

## 5. 情報公開と提供

法人及び法人内各施設に関する情報の公開・提供のため、法人広報誌の作成配布(年3回発行、毎回845部配布)及びホームページの更新を行い、法人及び各施設のイメージアップと周知を図った。

## 6. 職員福利厚生施設の整備と利用促進

法人職員の福利厚生の実質強化を図るために取得した長崎県佐世保市のハウステンボス「ワッセナー」内の住宅及び大分県由布市湯布院町由布高原村の保養所の利用促進を図った。

また、県内の近場で、気軽に利用できる保養所を要望する職員の期待に応え、佐賀市富士町上熊の川に整備した温泉付き保養所の利用促進を図った。

ハウステンボス保養所	湯布院保養所	熊の川保養所
・土地 376.35㎡ ・建物 モニエル瓦葺き2階建 (123.46㎡) ・令和6年度利用件数185件 (昨年116件)	・土地 845.79㎡ ・建物 木造鋼板葺き平家建 (117.75㎡) ・令和6年度利用件数98件 (昨年94件)	・土地 1,358.83㎡ ・建物 木造瓦葺 (205.5㎡) ・令和6年度利用件数501件 (昨年442件)

## 7. 退職金支給制度の運営

法人事務局において、法人内各施設の社会福祉施設職員退職手当共済事業事務を取りまとめ、掛金の納入事務及び退職金の請求事務を行った。

また、平成28年度からの社会福祉施設職員退職共済制度の見直しに伴い、平成28年度からの新規入職者等に対する退職金制度として、企業型確定拠出年金制度及び法人独自の積立金制度を採用し、事務取り纏め及び掛金の納入事務を行った。

		こども	オークス	清流苑	からつ 好学会、糸島	日の隈	向陽園 わいわい	計
共済	加入者数	195	45	16	134	26	15	431
	掛金(円)	8,872,500	2,047,500	728,000	6,097,000	1,183,000	682,500	19,610,500
401K	加入者数	132	27	31	99		11	300
	掛金(円)	9,474,000	1,670,000	2,385,000	7,227,700		860,000	21,616,700
合計	加入者数	327	72	47	233	26	26	731
	掛金(円)	18,346,500	3,717,500	3,113,000	13,324,700	1,183,000	1,542,500	41,227,200

- ・加入者数は、退職共済は令和6年4月1日、確定拠出年金は令和7年3月31日。
- ・確定拠出年金の掛金は、令和6年4月～令和7年3月分までの累計額。

## 8. 障害者雇用の促進

障害者雇用促進法に基づく事業主の障害者雇用義務(令和6年4月～令和7年3月法定雇用率2.5%)履行のため、法人内各施設での障害者の雇用促進に努めた。法人全体の年間の障害者雇用状況は次のとおりであった。

$$\begin{array}{rcl}
 \text{障害者である常用雇用労働者数} & = & 267 \\
 + \text{障害者である短時間労働者数} \times 0.5 & & \text{(年間延人員)} \\
 \hline
 & & = 3.20\% > 2.5\% \\
 \text{常用雇用労働者数} & = & 8,335.0 \\
 + \text{短時間労働者数} \times 0.5 & & \text{(年間延人員)}
 \end{array}$$

## 9. 経営組織のガバナンスの強化への対応

### (1) 監事監査の実施

法人内各施設において、監事による決算監査を5月30日と5月31日に、定期監査を12月4日と12月5日に実施した。

### (2) 会計監査人による監査の受審

会計監査人による決算監査を5月23日、5月24日、5月27日に受審した。

### (3) 内部監査の実施

法人内各施設の担当職員が、相互に対象施設の事業執行状況について内部監査を行った。(10月25日、28日、29日、31日、11月6日)

## 10. 人材の確保

### (1) 職員採用活動

法人内の各施設職員をメンバーとする「職員採用プロジェクトチーム」を編成して、法人内外で開催されるリクルート関連イベント等に積極的な参加を行った。

### (2) 外国人介護留学生の及び特定技能外国人

介護職員確保策の一環として、令和6年度は4名の外国人介護留学生の法人内施設への受け入れを行った。令和7年3月31日現在、外国人雇用者は18名(うち、特定技能外国人2名)を雇用している。

## 令和6年度 佐賀整肢学園こども発達医療センター事業報告

(総括)

令和6年度事業計画に基づき、以下の事業を行った。

医療型障害児入所施設・療養介護事業所(定員179名)、医療機関事業(入院・外来、医科・歯科 定床199床)、指定短期入所事業(空床型、併設型10床の併用)、児童発達支援センター(福祉型)(定員12名)、生活介護事業(定員15名)、放課後等デイサービス事業(定員7名)、保育所等訪問支援事業、日中一時支援事業、指定特定・障害児相談支援事業、障害児等療育支援事業、指定訪問リハビリテーション事業(介護保険)

令和6年度についても引き続き感染防止対策を行いながら事業を実施した。ここ数年は多くの行事が中止・規模縮小であったが、少しずつ元の形に戻ってきた。

入所・入院部門では、入院患者数は61,629名(前年63,064名)で1,435名の減、医療ベッド利用率(199床)は84.8%となった。要因は、手術件数の減少により入所利用者数及び一般入院患者数が若干減少したことによる。

福祉契約利用の入所者数では、59,240名(前年59,584名)で344名の減、平均入所者数は162.3名(179床)で、利用率は90.6%。

通所・外来部門では、新型コロナ感染対策として問診や消毒等を徹底したことにより児童発達支援センター、放課後等デイサービス事業、生活介護事業の在宅サービス利用者総数は5,585名(前年5,798名)となり、前年に比べ213名の減となった。外来患者総数は47,321名(前年47,598名)で前年に比べ277名の減となった。

収支は、入院・入所・通所・外来による減収、人件費を含む費用の減額により、経常増減差額(利益)は、83,602千円で前年186,741千円に比べ103,139千円の減益となり、当期活動増減差額は59,217千円となった。積立金の総額は4,462,078千円であり、純資産の合計は8,502,935千円で前年8,479,643千円より23,292千円の増となった。

〈器機・備品整備〉 ①モバイルビューワシステム及び送信機一式(病棟)

②ベッドセンサー及びサーバー機一式(病棟)

③車両2台(車イス対応車、普通車)

〈土地整備〉 ①宅地:2筆 計647.73㎡

〈建物整備〉 ①洗濯作業棟等増築工事(次年度継続)

## 令和6年度 佐賀整肢学園・オークス事業報告

佐賀整肢学園・オークス  
施設長 中島 重信

### 〈総括〉

令和6年度は、前年度に引き続き、施設入所支援事業、短期入所事業、障害者通所事業、介護保険通所事業、障害者就労事業、放課後等デイサービス事業、共同生活援助事業を行った。

入所サービス課においては、年度当初は入所者49名で始まりその後48名、49名、50名と推移し、年度末時点で49名と入退所の動きが多い一年となった。ほぼ一年を通して空床や入所者の入院がある状況が続き、実績としては前年度と比較し減となっている。新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染症も散発するものの予防と感染拡大に努め、集団感染は防ぐことができています。そのような中で中止又は縮小していた行事や活動を徐々に新型コロナウイルス感染症の流行前の状態に近づけるよう取り組んだ一年でもあった。

在宅サービス課では、報酬改定と利用実績を考慮し生活介護の定員を30名に、放課後等デイサービスの定員を5名にそれぞれ変更した。新規利用者の受け入れと介護保険への移行がほぼ同数で、生活介護の利用実績はほぼ横ばいであった。次年度は特別支援学校卒業後の新規利用契約が複数見込まれる。就労支援事業においては、心身の不調による欠席が幾分減少したことで利用実績は微増となった。また、委託事業の収入が上がったことや野菜類の販売が堅調であることから利用者工賃は増となった。放課後等デイサービス事業は、高等部の前年度に高等部を卒業した利用者が複数いたことに対して新規の利用者が少なかったため実績減となった。共同生活援助は入退所がなく大きくは変わらないが家族の高齢化等により外泊が減ったことで実績は微増となった。介護保険事業である地域密着型通所介護は、長期入院、体調不良等により利用が減ったことで実績減、減収となった。

施設整備においては、ソフト面の整備として佐賀県障害福祉分野における先進機器導入支援事業費補助金を活用し、介護給付費の請求に係る総合支援システムの導入を行った。これにより請求事務にかかる労力を大幅に削減できた。また、前年度に引き続き各種補助金を活用しながら介護ロボットの導入も引き続き積極的に行い、利用者と職員双方にとっての安全面の向上に取り組んだ。また、老朽化している設備が増えてきており必要に応じた修繕と計画的な更新についての検討を進めた。

人材確保においては、本人の希望する働き方を聴取し、勤務時間や勤務場所を配慮することで人材の流出予防に努め、年度途中での退職はなかった。その反面、年度末の退職希望や産休、病気休暇等への対応のためだしている求人への反応は少なく人材確保には課題も残った。

令和6年度の佐賀整肢学園・オークスの決算は、経常増減差額（利益）は、48,322千円で前年35,863千円に比べ12,458千円の増益となり、当期活動増減差額は42,319千円となった。積立金の総額は399,548千円であり、純資産の合計1,334,027千円で前年1,311,423千円より22,604千円の増となった。

・入所サービス

- ① 1日の平均利用者数は、定員50名に対し、施設入所支援事業で48.20名、生活介護事業47.83名であった。
- ② 併設型短期入所事業（定員4名）は、年間利用延べ人員36名、一日平均利用0.1名であった。
- ③ 日中一時支援事業は、利用希望がなかった。

・在宅サービス

- ① 介護保険地域密着型通所介護（定員10名）は、開所日数251日、延べ利用者1,314名、1日の平均利用者数は5.24名であった。
- ② 生活介護事業（定員30名）は、開所日数251日、延べ利用者7,062名、1日平均利用者数28.09名であった。
- ③ 就労継続支援B型事業（定員20名）は、開所日数252日、延べ利用者1,706名、1日平均利用者数6.77名であった。
- ④ 放課後等デイサービス事業（定員5名）は、開所日数302日、延べ利用者1,346名、1日平均利用者数4.46名であった。
- ⑤ 介護サービス包括型共同生活援助事業（グループホームあったか）（定員19名）は、延べ利用者6,120名、1日平均利用者数16.77名であった。
- ⑥ 単独型短期入所事業（ショートステイあったか）（定員5名）は、延べ利用者532名、1日平均利用者数1.46名であった。

佐賀整肢学園・かんざき清流苑  
施設長 江口 泰子

(総括)

令和6年度事業計画に基づき、指定介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム 利用定員50名)、短期入所生活介護(ショートステイ 利用定員20名)の2事業を実施した。

入所者の重度化や医療的なニーズの高い方・認知症ケアの必要な方がより顕著となっている中で、介護報酬加算体制に基づく職員(介護福祉士、看護職員)を適切に配置し、各種研修会に積極的に職員を参加させ資質・専門性のさらなる向上を図った。また、住み慣れた施設で穏やかに最後を迎えたいと願う入所者の思いに寄り添いながら、嘱託医や協力医療機関等との連携の強化に努め、医療的ケアの必要性が増す入所者への急変時の対応を行うと共に、人生の最後まで尊厳ある生活を送れるように支援を行った。

記録ソフトや記録用端末等のICT機器を活用し、職員の業務負担軽減や効率化、事業所間の情報共有の強化等を行なった。

介護保険利用料自己負担の軽減(社会福祉法人等利用者負担軽減制度)を実施し、生活困窮者の経済的支援にも努めた。

令和6年度のかんざき清流苑の決算は、介護保険改正による加算増及び利用実績増等の影響等により、経常増減差額(利益)6,302千円で前年3,126千円に比べ、3,176千円の増益となり、当期活動増減差額は688千円となった。積立金の総額は、68,000千円であり、純資産の合計は586,949千円で前年599,659千円より12,710千円の減となった。

1. 施設・機器等の整備

- ・シャワーキャリー1台の入替を行った。
- ・ガス乾燥機2台の入替を行った。
- ・厨房床下の洗浄及び消毒を行った。
- ・非常用電源設備の修繕を行った。
- ・駐車場外灯の修繕を行なった。
- ・消火ポンプの修繕を行った。
- ・正面玄関の自動ドアの修繕を行った。

2. 入所者関係(特別養護老人ホーム入所定員~50名、短期入所定員~20名)

特別養護老人ホームの年間の延入所人員は17,970名で、1日平均の入所人員は、49.2名となった。(前年度平均49.7名で0.5名減)また、短期入所では1日平均の利用人員は、18.7名で前年平均より2.3名の増であった。

令和6年度の特別養護老人ホーム・短期入所の1日の平均利用人員は67.9名となった。

(前年度の平均利用人員66.1名で1.8名増)

3. その他

- ① 佐賀女子短期大学生である留学生4名(ミャンマー出身)について奨学金制度によるサポート施設としての支援を行なった。(佐女短期大学留学生4名、外国人正規職員4名)
- ② かんざき日の限寮と協働による地域交流食堂「こんね」を毎月1回開催した。

## 令和6年度 在宅サポートセンターかんざき清流苑事業報告

在宅サポートセンター かんざき清流苑  
施設長 江口 泰子

### (総括)

令和6年度の事業計画に基づき、社会福祉事業（デイサービス、居宅介護支援、認知症対応型共同生活介護、認知症対応型通所介護事業（共用型））、公益事業（サービス付き高齢者向け住宅）の5事業の運営を行なった。介護保険事業所については、介護報酬加算体制に基づく職員（介護福祉士、看護職員、認知症介護実践者研修受講者等）を適切に配置し、機能訓練や認知症の方へのサービス向上に努めた。また、居宅支援事業所については体制を整備し今年度より特定事業所加算IIの算定を行った。

令和6年度の決算は、介護保険制度改正に伴う加算増及び利用者増等の影響により、社会福祉事業では、経常増減差額（利益）△2,969千円で、前年△15,984千円に比べ13,015千円の増益となり、当期活動増減差額は1,224千円となった。公益事業の決算は、経常増減差額（利益）△5,327千円で、前年△5,766千円に比べ439千円の増益となり、当期活動増減差額は△5,327千円となった。積立金の総額（社会福祉事業公益事業合算）は32,500千円であり、純資産の合計は302,679千円で前年308,299千円より5,620千円の減となった。

### 1. 施設・機器等の整備

- ・ AED1台を整備した。
- ・ デイサービス浴室水栓及び機械浴槽の修繕を行なった。
- ・ 居宅支援の電話機器の修繕を行った。
- ・ グループホームの給湯器の修繕を行なった。
- ・ デイサービス脱衣室の空調機器の修繕を行なった。
- ・ リフト付き福祉車両1台の寄贈を受けた。（24時間テレビチャリティー委員会より）

### 2. サービス利用状況

- ① デイサービス（月曜日から土曜日：定員40名、日曜日：定員20名）  
延利用者数は9,861名（介護8,921名、支援940名）で前年度より72名増となり、1日の平均利用人員は、27.4名であった。（月～土曜日は30.6名、日曜日は8.6名）
- ② 居宅介護支援（ケアプラン作成等）  
年間2,377名（予防249名、介護2,128名）の実績で、前年度から52名減であった。
- ③ グループホーム（定員9名）  
延利用者数は3,259名で、前年度から46名増となり1日の利用人員は平均8.9名であった。
- ④ 認知症対応型通所介護（定員3名）  
延利用者数は706名で、前年度から79名増となり1日の利用人員は平均2.3名であった。
- ⑤ サービス付き高齢者向け住宅（定員23名）  
延利用者数は8,328名で、前年度から145名増となり1日の利用人員は平均22.8名であった。

### 3. その他

- ① かんざき日の限寮と協働で地域交流食堂「こんね」を毎月1回開催した。

令和6年度佐賀整肢学園からつ医療福祉センター  
(アルトン・久里双水園・まつぼっくり教室・好学舎  
・糸島こどもとおとなのクリニック)  
事業報告総括

佐賀整肢学園からつ医療福祉センター  
センター長 原 寛道  
副センター長 岩瀬 裕幸  
久里双水園施設長 笠野 健二  
好学舎施設長 山田 秀男  
糸島こどもとおとなのクリニック  
施設長 高村 和幸

(総括)

令和6年度事業計画に基づき、療養介護・医療型障害児入所施設：アルトン（定員45名）、障害者支援施設：久里双水園（定員52名）、児童発達支援センター：まつぼっくり教室（定員24名）の3施設の事業、好学舎（定員30名）、糸島こどもとおとなのクリニック（公益事業）及び糸島こどもとおとなのクリニック（社会福祉事業：医療型短期入所事業【定員6名】、児童発達支援事業【定員5名】、放課後等デイサービス事業【定員5名】）を実施した。

令和6年度のからつセンターの施設等整備においては、職員宿舎を整備工事を行った。また、新たに強度行動障害児の受入れ事業の開設を目指し、その用地の一部を取得した。好学舎及び糸島クリニックでは、特に行われなかった。

機器の整備においてはからつセンターでは、アルトン入院病棟にて使用するポータブルX線撮影装置。通所のアルトンあかりでは、利用者やご家族より要望が強かった入浴サービスについて、佐賀県重度障害者地域生活重点支援補助金を活用して、シャワーストレッチャーや走行介助器具等の整備を行った。久里双水園においては、国土交通省の補助を利用し、見守り介護ロボットを整備した。また、多機能型事業の生活介護において、あすなろ福祉財団の助成を得て自動入浴機を整備することができた。その他、経年劣化に伴う医療機器、事務用機器、公用車等の施設整備を行った。糸島こどもとおとなのクリニックにおいては、事務用プリンターを整備した。好学舎では、特に整備は行われなかった。

収益の状況はアルトン入所部門において、感染症との共存を進め、医科外来が前年度比約10%以上増加した。入院においては微増となり、収入としても約15%の増加となった。また、在宅部門においては、児童発達支援事業が稼働率54%ながらも前年比207%と倍増、放課後等デイの利用者数も前年比103%となった。唐津東松浦地区に新規事業所が多く開設され、利用者の取り合いとなっているのが現状であるが、入浴を開始するなど利用者や家族のニーズに対応したことで信頼を得た結果となった。

久里双水園の入所部門は、開設後22年が経過し開設当初から入所されている利用者の退所が重なった。新たな入所利用者の獲得に奔走し、利用実績は昨年度とほぼ同等の実績となり、収入額も昨年度の並みとなった。在宅部門の生活介護、就労継続支援については、通所生活介護利用者数が昨年度に引き続き前年割れ（前年比94%）となり、稼働率は55.5%。相知で行っている就労事業所においては、利用者数は前年と変わらなかったものの、稼働率は36%と低調な状況が続いている。令和7年3月より支援学校の元

校長を招聘し、利用者の増加を図る。福祉ホームについては、利用者数及び収入とも昨年度と同程度となった。就労継続支援及び福祉ホーム両事業は唐津市相知町に立地しているが、稼働率は未だ低調な結果となった。

まっぼっくり教室及び放課後等デイサービスでは、感染症との共存が進み前年度以上の利用者数及び収益を確保することができた。稼働率も児童発達支援センターで約8割、放課後等デイサービスで9割以上と安定して利用頂くことができた。

相談支援「きずな」は、プラン及びモニタリング数の合計としては、昨年度同等となり、収益も前年度並みの収入を得ることができた。

児童心理治療施設好学舎については、入所定員は30名。1日平均利用数22.1名、稼働率73.6%であった。通所定員は10名。1日平均利用数3.0名、稼働率30.2%であった。

糸島こどもとおとなのクリニックは、開設から丸8年が経過した。患者数としては、小児科は対前年比100%と前年度並みの実績を得たが、整形外科、リハビリテーション科は前年度を割り込み、整形外科については対前年比87%という実績となった。収支では、6年目となる福祉事業についても、放課後デイサービス以外の利用者数は頭打ちとなっており、公益事業の減収も含め経常活動増減差額ベースで対前年度比60%（昨年度△13,010千円、今年度△21,974千円）と、依然にまして厳しい状況となっている。

社会福祉事業については、医療型短期入所は、定員6名に対して、1日平均利用者数3.6人（稼働率60%：前年比97%）、児童発達支援事業は、定員5人に対して、1日平均利用者数3.8人（稼働率76%：前年比91%）、放課後等デイサービスは定員5人に対して、1日平均利用者数4.1人（稼働率82%：前年比129%）、日中一時支援事業は休止した。

令和6年度からつ医療福祉センターの収支については、事業活動計算書による経常増減差額（利益）は、109,553千円（入所：76,378千円・在宅：33,175千円）で、前年27,202千円に比べ82,351千円の増益となり、当期活動増減差額は92,069千円（入所：56,781千円・在宅：35,288千円）となった。積立金の総額は1,204,167千円（入所：758,167千円・在宅：446,000千円）となり、前年度1,157,167千円より47,000千円の増となった。貸借対照表による純資産の合計は3,727,122千円（入所：2,833,232千円・在宅：893,890千円）で前年3,675,359千円（入所：2,812,259千円・在宅：863,100千円）より51,763千円の増となった。

好学舎の収支は、事業活動計算書による経常増減差額（利益）は35,174千円で、前年28,559千円に比べ6,615千円の増益となり、当期活動増減差額は35,167千円となった。積立金の総額は178,000千円となり、前年度146,000千円より32,000千円の増となった。貸借対照表による純資産の合計は、657,412千円で前年639,687千円より17,725千円の増となった。

糸島クリニックの収支は、事業活動計算書による経常増減差額（利益）は△21,975千円（公益：△45,624千円・福祉：23,649千円）で、前年△13,011千円に比べ△8,964千円の減益となり、当期活動増減差額は△21,974千円（公益：△16,623千円・福祉：△5,351千円）となった。積立金の総額は2,500千円となり、前年度2,500千円より増減がなかった。貸借対照表による純資産の合計は521,104千円（公益：397,570千円・

福祉：123,534千円）で前年の545,090千円より23,986千円の減となった。

## 1. 施設設備の整備

今年度の施設等整備及び機器整備については、95,251千円であった。

### (1) 施設等整備

- ①職員宿舎整備工事（唐津）
- ②職員宿舎外構工事（唐津）
- ③児童関係事業用地取得（唐津）

### (2) 機器整備

- ①ポータブルX線撮影装置整備（唐津）
- ②生体情報モニター整備（唐津）
- ③見守りロボット aams 整備（唐津）
- ④自動入浴機（ライラックプラス）整備（唐津）
- ⑤シャワーストレッチャー整備（唐津）
- ⑥医療機器（エアマットレス、輸液ポンプ等）整備（唐津）
- ⑦事務機器（シュレッダー、プリンター等）整備（唐津・糸島公益）
- ⑧公用車（遠方出張用）整備（唐津）

## 2. 事業の状況

今年度、佐賀整肢学園からつ医療福祉センター（入所、在宅）のサービス活動収益については、1,523,516千円（前年比111%）であった。

### (1) 療養介護・医療型障害児入所施設：アルトン

入所定員45名（療養介護・医療型障害児入所）、契約外入院1名、短期入所8名、児童発達支援事業定員5名、放課後等デイサービス事業定員5名

- ①医科外来は1日平均通院数74.7名、前年比109%であった。  
歯科外来は1日平均通院数11.9名、前年比96%であった。
- ②入所は1日平均利用者数46.1名、定員に対する稼働率は100%（前年比98%）であった。
- ③短期入所（宿泊・メディカル日帰り）は1日平均利用者数4.55名で定員に対する稼働率57%（前年比97%）であった。
- ④通所リハ（介護保険）は利用者確保が難しく、今年度も事業を休止した。
- ⑤児童発達支援事業は1日平均利用者数2.7名、定員に対する稼働率は54%（前年比207%）であった。
- ⑥放課後等デイサービス事業は1日平均利用者数4.3名、定員に対する稼働率は86%（前年比103%）であった。

### (2)-1 障害者支援施設・久里双水園

（施設入所支援・生活介護定員52名・短期入所定員6名）

- ①施設入所支援・生活介護の利用状況は1日平均利用者数49.5名で定員に対する稼働率は95%（前年比98%）であった。
- ②短期入所事業・1日平均利用者数2.7名、定員に対する稼働率は45%（前年比110%）であった。

### (2)-2 多機能型事業所（生活介護定員20名・就労継続支援B型事業定員10名）

- ①生活介護（通所）事業・1日平均利用者数11.1名、定員に対する稼働率55%（前年比94%）であった。
- ②就労継続支援B型事業・1日平均利用者数3.6名、定員に対する稼働率は36%（前年比100%）であった。

(2)-3 福祉ホーム事業（定員9名）

1日平均利用者数5名、定員に対する稼働率は56%（前年比100%）であった。

(3)-1 児童発達支援センター・まっぼっくり教室（定員24名）

1日平均利用者数19名、定員に対する稼働率は79.2%（前年比109%）であった。

(3)-2 放課後等デイサービス事業（定員10名）

1日平均利用者数9.4名、定員に対する稼働率は94%（前年比101%）であった。

(3)-3 日中一時支援事業は1日平均利用者数10.7（前年比97%）であった。

(4) 相談支援事業（きずな・委託相談事業）

- ①特定及び障害児相談支援事業でのプラン作成数132件、モニタリング数421件で合計553件（前年比102%）であった。
- ②地域療育等支援相談事業で受けた年間総相談数は、60件（前年比66%）であった。

(5) 好学舎

今年度、好学舎のサービス活動収益については、221,953千円（前年比108%）であった。

- ①入所定員30名は1日平均利用数22.1名（前年比105%）、稼働率73.6%であった。
- ②通所定員10名は1日平均利用数3.0名（前年比115%）、稼働率30.2%であった。

(6) 糸島こどもとおとなのクリニック

今年度、糸島こどもとおとなのクリニック（公益・福祉）のサービス活動収益については219,705千円（前年比96%）であった。

(6) -1 公益事業

- ①医科の外来通院数は小児科年間2,763名（前年比100%）、整形外科年間4,534名（前年比87%）、リハビリテーション科年間9,805名（前年比96%）、児童精神科は廃止した。1日平均通院64.7名（前年比94%）の実績であった。
- ②歯科通院患者総数は915名（前年比105%）、1日平均通院3.9名（前年比92%）の実績であった。

(6) -2 社会福祉事業：医療型短期入所事業（定員6名）、児童発達支援事業（定員5名）、放課後等デイサービス事業（定員5名）、日中一時支援事業（定員3名）

- ①医療型短期入所は、年間1,026名、1日平均利用者数3.6名（前年比90%）、定員に対する稼働率は60%であった。
- ②児童発達支援事業は、年間912名、1日平均利用者数3.8名（前年比91%）、定員に対する稼働率は76%であった。
- ③放課後等デイサービス事業は、年間952名、1日平均利用者数4.1名（前年比129%）、定員に対する稼働率は82%であった。
- ④令和2年12月より開始した日中一時支援事業は、令和5年4月より休止した。

### 3. まとめ

令和6年度、からつ医療福祉センターは感染症との共存を進め、入所部門であるアルトンでは、医科外来が前年度比約10%以上増加した。入院においては微増となり、収入としても約15%の増加となった。

また、在宅事業部においては、アルトンあかり児童発達支援事業が稼働率54%ながらも前年比207%と倍増、放課後等デイの利用者数も前年比103%となった。唐津東松浦地区に新規事業所が多く開設され、利用者の取り合いとなっているのが現状であるが、入浴を開始するなど利用者や家族のニーズに対応したことで信頼を得た結果となった。

まっぼっくり教室及び放課後等デイサービスでは、感染症との共存が進み前年度以上の利用者数及び収益を確保することができた。稼働率も児童発達支援センターで約8割、放課後等デイサービスで9割以上と安定して利用頂くことができた。

相談支援「きずな」は、プラン及びモニタリング数の合計としては、昨年度同等となり、収益も前年度並みの収入を得ることができた。

久里双水園の入所部門は、開設後22年が経過し開設当初から入所されている利用者の退所が重なった。新たな入所利用者の獲得に奔走し、利用実績は昨年度とほぼ同等の実績となり、収入額も昨年度の並みとなった。今後とも満床を維持できるよう努力していく。

在宅部門の生活介護、就労継続支援については、通所生活介護利用者数が昨年度に引き続き前年割れ（前年比94%）となり、稼働率は55.5%。相知で行っている就労事業所においては、利用者数は前年と変わらなかったものの、稼働率は36%と低調な状況が続いている。令和7年3月より特別支援学校のOBを招聘し、利用者の増加を図る。福祉ホームについては、利用者数及び収入とも昨年度と同程度となった。就労継続支援及び福祉ホーム両事業は唐津市相知町に立地しているが、稼働率は50%未満と未だ低調な結果となった。解決のためには、グループホームの設置等根本的な対策が必要と考えられる。

好学会について、施設の経営面では、当施設開設時の佐賀県との協議に基づき、段階的に入所数の拡大を進めており、稼働率が入所部門で73%程度、通所部門で30%程度となっているが、令和6年度も佐賀県より厚生労働省へ定員の特例協議の結果、暫定定員の設定が見送られ、入所定員30名、通所定員10名の定員が特例承認されたため、安定的な経営に必要な措置費収入を確保することができた。

経年的に見ると、令和5年度頃から年間の入所児童数の増加傾向が停滞しているため、入所児童数の確保が課題となってきている。

糸島クリニックにおいては、令和3年及び4年度は収支バランスの改善が見られたが、5年度以降再び悪化傾向がみられ、月ごとの患者数は前年度を割り込む月が多くなり、総じて収益の減少に転じている。特に整形外科部門においては月ごとの患者数の減少がみられ、前々年比においても減少している。小児科、リハビリテーション科では極端な減少は認めないが、患者の絶対数が少なく患者減少がみられる。積極的な集患が必要である。在宅サポートセンター部門でも、放課後デイサービス以外の利用者数は頭打ちとなっている。

今後は、外来患者数の確保に努力すると共に、利用者のニーズの受け皿として、短期入所事業、看護師不足で中止していた日中一時支援事業や放課後等デイサービス事業等における土曜日終日の営業や視野に入れて整備を進めたい。

からつ医療福祉センターは、多様化するニーズに適応しつつ、「感染症との共存」を

模索している。今後も感染症等と対峙しつつ、利用者様を守りながら、突発的な事象に  
耐えうる財務体質を確保しつつ、唐津東松浦地区及び糸島地区になくてもならない医療、  
福祉施設として存在し続けられる経営を行っていききたい。

## 令和6年度 佐賀整肢学園・かんだき日の限寮事業報告（総括）

佐賀整肢学園・かんだき日の限寮  
施設長 大島 毅

（総括）

令和6年度の事業計画に基づき、救護施設佐賀整肢学園・かんだき日の限寮（定員70名）の施設運営を行った。

事業の実施に当たっては、感染症対策に努めながら、利用者の活動や業務内容等について、随時見直しを行った。

関係機関と連携を密に取りながら、循環型施設として地域や他種別施設等への移行推進、自己実現に向けた各種サービスの充実に努めた。また、地域社会との連携、福祉人材の育成にも積極的に取り組んだ。

地域における公益的な取り組みとして、生活困窮者自立支援法に規定された就労訓練事業、生活困窮者の一時受入事業（独自事業）、生活困窮者に対する相談支援事業（独自事業）を実施した。

利用者の状況として、入所定員70名に対し、年間平均利用者は76.8名（前年度平均76.5名）となり、定員に対する利用率は110%（前年度109%）で推移した。今年度より開始した保護施設通所事業については、定員4名に対し、1名の登録があり、通所訓練及び訪問指導を計142回利用された。

令和6年度のかんだき日の限寮の決算は、経常増減差額51,121千円で前年の33,613千円に比べ、17,508千円の増益となり、当期活動増減差額50,706千円、次期繰越活動増減差額372,420千円であった。積立金の総額403,500千円となり、純資産の合計は1,054,380千円で前年度より41,656千円の増となった。

### 1. 施設設備の整備

#### (1) 機器整備関係

- ・中央競馬馬主社会福祉財団より助成金(1,770千円)を受領し、送迎用普通自動車1台(3,775千円)を購入した。
- ・エアコン2台(計347千円)の入れ替えを行った。
- ・パソコン2台(計417千円)を購入した。

#### (2) 設備整備関係

- ・1F職員室空調設備の故障のため、修繕(242千円)を行った。
- ・給湯ラインポンプの故障のため、取替工事(195千円)を行った。

(総括)

佐賀県より経営移譲を受け16年目となった今年度も、新型コロナウイルス感染症に加え、インフルエンザも警報レベルで流行したため、重症化しやすい高齢者の生活施設として、安全・安心な生活が維持できるよう、徹底した感染防止策を講じながら生活支援を実施した。それでも8月下旬からの約3週間で、入所者20名、職員2名が新型コロナウイルスに感染したが、同一敷地内事業所(わいわい)の職員と協力体制をとり毎日4回の検温などで体調不良の早期発見や飛沫感染防止のために食事時間をグループ分けするなどの感染対策を強化した結果、9月24日からは通常の生活に戻ることができた。

運営方針としては、法令遵守、法人の基本理念及び基本方針の元、「環境上及び経済的理由」による地域での生活が困難な「高齢者の生活の社会的セーフティ・ネット」として、安全、安心な生活環境下で、その能力に応じて、自立した日常生活ができるよう、自立支援を行った。

仏教婦人会有志による大正6年の開設時から今日までの長い歴史と伝統を継承し、民営施設としての柔軟な発想と科学的根拠に基づく「福祉」の実践をモットーに、令和6年度の事業計画に沿った運営を行なった。地域貢献事業の一環として、当施設とわいわいが主催の、「あつまろうよつばカフェ」を継続して実施した。毎月第3土曜日に、同一敷地内にある「デイサービスセンターわいわい」にて機能訓練や認知症予防講座・体操等に取り組み、好評を得た。また、少年刑務所における職業指導の場や救護施設入所者への就労の場の提供など、地域を問わず社会貢献事業にも積極的に取り組んだ。

施設整備については、昭和60年竣工の建物のため、設備関係の経年劣化による老朽化が著しく、給湯補給水弁や浄化槽調整ポンプ、自動ドア設備、2階テラス部分の防水工事などの修繕は急務であった。

健康管理など入所者の処遇面では、法人内の医療機関であるこども発達医療センター等法人内施設の協力のもと、処遇向上に努めた。加えて生計の立て直しなど「個別ケア」に重点を置く専門性の高い自立支援の強化も図った。盲、聾啞、虐待、触法累犯高齢者など、居場所のない高齢者などの困難事例を積極的に受け入れたことで、県地域生活定着支援センター、地域包括支援センターなどとの連携が深化し、DV被害者等の緊急入所の受け入れに繋がった。その中でも、行き場のない触法高齢者の支援事業として新たに自立準備ホームとしての受け入れを開始した。また、民生・児童委員との連携を構築・強化し、セーフティ・ネットとしてのすそ野を広げるため、佐賀市内の全26か所の民生・児童委員協議会へ養護老人ホームについて説明に出向き、また施設見学も受け入れた。

令和6年度措置者の実績は、措置解除者10名(昨年度10名)に対し、新規措置者7名(昨年度2名)、DV被害者の緊急一時受け入れ2名であった。年間平均入所者数は、定員80名に対し65.0名(昨年度69.3名)、平均入所率81.3%まで低下、さらに光熱水費・物価高騰などもあり、経営はますます厳しい状況に直面している。

令和6年度の県内12施設の養護老人ホームをみると、年間平均入所率は74.6%(昨年度73.9%)、入所率が上がった理由は2施設が規模縮小(定員△50名)したことによるもので、措置入所者増によるものではない。なお、令和7年度にもさらに2施設が規模縮小(定員△40名)を予定している。

令和6年度の佐賀整肢学園・佐賀向陽園の収支については、入所者減及び経年劣化・老朽化した施設の修繕等の経費増などにより、経常増減差額(利益)は、△6,808千円で前年の△933千円に比べ△5,875千円の減、当期活動増減差額は△9,162千円となった。積立金の総額は61,633千円であり、純資産の合計は215,362千円で前年226,382千円より11,020千円の減となった。

- 施設設備・備品整備など
  - ① 給湯補給水弁等取替工事
  - ② 浄化槽調整ポンプ等取替工事

- ③ 正面玄関自動ドア装置修理
  - ④ 2階テラス一部防水工事
- 新型コロナウイルス・インフルエンザ等感染症対策
- ① 対面にならない座席配置のレイアウト継続（一部対面式のテーブルについては、飛沫拡散防止のための衝立を設置）。
  - ② 食堂内の密回避として、食事提供時間を前半・後半のグループに分けた。
  - ③ オゾン脱臭殺菌機 を活用し、食堂内を毎日殺菌。
  - ④ 非接触体温計にて1日3回体温測定を実施、入所者の僅かな体調変化の早期把握に努めた。
  - ⑤ 感染症罹患患者隔離対応用の個室を2部屋準備。
  - ⑥ 開催する会議は、感染状況を勘案し集合形式とリモート会議形式を使い分けた。
- その他
- ① 職員の処遇向上として、毎月開催する働きやすい職場づくり委員会にて、ICT 機器活用等による業務効率化等を検討し、時間外労働等の減少につなげた。
  - ② 労働環境の改善について、給食部門及び洗濯業務を外部の専門業者へ継続して委託、直接処遇業務の専門職として専念できるよう業務改善を図った。
  - ③ 人材確保の一環として受け入れをしていた外国人留学生（ミャンマー）3名は養成校を卒業、3名とも介護福祉士試験に合格した。うち2人は、令和7年度から正規職員として働く予定であり、残り1名は4年生大学へ編入するため、引き続き支援を行う。

令和 6 年 度  
居宅介護支援センターわいわい事業報告書

居宅介護支援センターわいわい  
施設長 古川 政弘

(総括)

当事業所は、平成 23 年 7 月、養護老人ホーム佐賀向陽園の同一敷地内に開設、老人デイ及び高齢者、障害者の訪問介護サービス事業を展開、14 年目を迎えた。今年度も、新型コロナウイルス感染症に加え、インフルエンザも警報レベルで流行したため、徹底した感染防止策を講じながら安全、安心な介護サービスの提供を実施した。それでも、8 月下旬からの約 3 週間で、利用者 17 名・職員 1 名に新型コロナウイルス感染者が発生したため、感染拡大防止の観点からサービス利用開始前の体調確認（検温・咽頭痛の有無・抗原検査等）を看護職員にて行うなど感染対策を強化しながら営業した。

運営方針として、社会貢献を継続し、地域高齢者支援事業の一環として、令和 3 年度より来迎寺地区老人クラブから引き継いでわいわいが主催となり開催している「あつまろうよつばカフェ」は、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底し、令和 6 年度も継続実施した。おかげさまで参加者からは高評価を得ることができ、次年度以降の継続要望もいただいている。

デイサービスでは、「要支援、要介護状態になっても、その住み慣れた地域、環境で可能な限り、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営む」ことができるよう、第 9 期の介護保険事業の趣旨に基づき、中重度ケア・機能訓練を強化し利用者の身体機能の維持に力を入れた。また、認知症対応型デイサービスでは、その人の生活史を背景に個別の認知症ケアを実施、定期的に長谷川式スケールも行き、認知症の進行抑制に努めた。なお、養護老人ホーム入所者の利用では、同一敷地内のメリットを最大限に活用し、養護老人ホームとの連携の強化、行事の共催、利用者情報の共有など、様々な介護ニーズにスピーディかつ効率的に対応、包括的な生活支援を構築し、利用者の処遇向上に努めた。また、一般デイ及び認知デイ両事業所で移乗サポートロボット Hug を活用したことで、職員の腰痛予防等、働きやすい職場への改善に努めた。

訪問介護事業所は、平成 23 年 11 月から居宅介護事業（障害者総合支援法）を実施、今年度も福祉ホームくるみの家（唐津市相知町）にヘルパー派遣し、サービス提供を継続して行なった。一方、介護保険法に基づく訪問介護（高齢者ヘルパー）事業では、住み慣れた我が家での生活を、少しでも長く続けられるよう、サービス計画に沿ったヘルパー派遣を行った。また、リアルタイムでの情報共有ができるよう、インカムを活用し利用者のその日の状態把握を確実にし、業務効率化をし、生産性向上につなげた。しかしながら、令和 6 年度の報酬改定において報酬単価が減額となった影響も大きく、事業所経営は大変厳しいものとなった。

令和 6 年度の居宅介護支援センターわいわいの収支については、経常増減差額（利益）は、12,683 千円で前年 18,355 千円に比べ 5,672 千円の減益、当期活動増減差額は 10,317 千円となった。積立金の総額は 208,750 千円、純資産の合計は 346,327 千円で、前年 338,098 千円より 8,229 千円の増となった。

[事業概況]

1. デイサービスセンターわいわい（定員 30 名）

営業日は土曜日を除く週 6 日、令和 6 年度は、313 日サービスを実施。延べ利用者 6,965 名（昨年度

7,217名)、1日平均利用者数は22.3名(定員稼働率74.2%)、令和5年度の実績を下回った主な要因は、重介護利用者の利用終了、長期入院などである。その結果、収支状況の経常増減差額(利益)は、6,363千円(昨年度7,600千円)、昨年度より1,237千円の減となった。

## 2. 認知症対応型通所介護グループデイわいわい(定員12名)

営業日は日曜日を除く週6日、令和6年度は、313日サービスを実施、延べ利用者3,566名(昨年度3,331名)、1日の平均利用者数は11.4名(定員稼働率94.9%)、令和5年度の実績を上回った主な要因は、新型コロナウイルス感染による営業自粛期間がなかったこと、また、軽度の認知症状のある利用者を積極的に受け入れたことである。その結果、収支状況の経常増減差額(利益)は4,714千円(昨年度2,984千円)、昨年度と比べ1,730千円の増となった。

## 3. 訪問介護事業所 わいわい

### (1) 介護保険事業部門

令和6年度は、365日サービスを提供、サービス提供時間は朝6:30~19:00、提供内容は生活援助、身体介護及び生活援助+身体介護等の訪問介護サービスを、利用登録者39名(昨年度39名)に実施した。1日の延べ利用人員は25.2名(昨年度36.0名)、年間利用実績件数は、9,211件(昨年度13,157件)のホームヘルプサービスの提供を行なった。サービス提供内容では、起床・就寝介助などの身体介護が中心であった。令和5年度の実績を下回った主な要因は、主な訪問先である向陽園入所者の減に伴う利用者数減などにより利用実績が減少したこと、さらに令和6年度の報酬改定により利用単価が減額改定したことなどである。しかし、減収を最小限に食い止められるよう、特定事業所加算など新たな加算を取得するなどしたが、収支状況の経常増減差額(利益)は△296千円(昨年度5,688千円)、昨年度と比べ5,984千円の減となった。

### (2) 障害者総合支援(居宅介護)事業部門

本事業の対象者は、知的、精神及び身体などの障害程度区分が1以上の方に、支援サービス計画に沿って実施、7:00~20:00の間に入浴、排泄及び家事などの援助を実施した。令和5年度は、契約登録者計4名(昨年度5名)の方に、延べ706件(昨年度同期間767件)のサービスの提供を行った。利用実績が減少した要因は、唐津地区の専任ヘルパーの人員補充ができず、訪問可能な日数が限られたこと等である。その結果、収支状況の経常増減差額(利益)は1,902千円(昨年度2,081千円)で、昨年度と比べ179千円の減になった。

### (3) 地域活動支援(移動支援)事業部門

平成30年10月より、本事業を開始、対象者の要件は、身体障害者・療育もしくは精神障害者手帳所持者。移動支援は、サービス等利用計画に沿って、利用者の余暇活動など(映画鑑賞・買い物等)の外出または社会生活上必要不可欠な外出を個別に支援を行う。令和6年度の利用実績は、登録者は4名(唐津市、白石町、上峰町、小城市)であったが、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響等により利用の希望がなく、利用実績は0件(昨年度0件)であった。

### (特記事項)

- 施設設備・備品整備など
  - ① 4Kテレビ購入

- 新型コロナウイルス・インフルエンザ等感染症対策
  - ① 開催する会議は、感染状況を勘案し集合形式とリモート会議形式を使い分けた。
  - ② からつ方面のくるみの家出張所ともリモート会議方式にて開催。
  - ③ 飛沫拡散防止のための衝立を全テーブルに設置継続。
  - ④ オゾン脱臭殺菌機を活用し、ホール、浴室、トイレ内を毎日殺菌。
  - ⑤ 空気清浄機をホール内と職員の休憩室に設置継続。
  - ⑥ 二酸化炭素測定器を設置し、二酸化炭素濃度をチェックしこまめな換気を実施。
  - ⑦ 非接触体温計にてサービス利用中の体温測定を3回実施、僅かな体調変化のサインを察知。
  
- その他
  - ① 業務の見える化・平準化、ICTの積極的活用による情報共有の強化等により効率的な業務遂行を行った。これにより、地域貢献事業「あつまろうよつばカフェ」へも多様な職員が参加できるようになり、利用者の要望を十分反映できるものに深化した。この取り組みを佐賀県老人福祉施設協議会職員研究発表にて発表、3位入賞し、令和7年度九州老人福祉施設職員研究大会の発表者に選ばれた。
  - ② 労働環境の改善について、洗濯部門を外部の専門業者へ継続して委託、さらにアシスタント職員と業務分担し、直接処遇業務の専門職として専念できるよう業務改善を図った。
  - ③ 電子掲示板を活用し、リモート会議での資料共有や唐津地区在住の利用者とのリモート面談等に活用し、業務効率化を図り生産性向上に努めた。
  - ④ ホール内のホワイトボードを活用し、職員の業務を可視化及び役割を明確化し、職員間の連携強化を図り、事故防止や利用者の安全確保に努めた。